

令和6年度花巻市石鳥谷地域協議会（第4回） 会議録

【日 時】 令和7年2月25日（火）午前9時55分～午前11時26分

【場 所】 花巻市石鳥谷総合支所 3階 大会議室

【出席者】

出席委員：11名

那須千賀委員、浅沼総委員、菅原紳委員、岩館大輔委員、菅原教雄委員、
八重樫康治委員、高橋元一委員、大竹佐久子委員、高橋公男委員、
菅原康之委員、板垣武美委員

欠席委員：2名

晴山富子委員、藤館茂委員

市側出席者：9名

説明者（花巻市教育委員会）

佐藤教育長、瀬川教育部長、及川教育部教育企画課長

事務局（石鳥谷総合支所）

佐藤総合支所長、八重樫地域振興課長、高橋市民サービス課長、
晴山地域支援監、伊藤地域振興課長補佐、菅原地域づくり係主査

【説明事項】

①石鳥谷地区4小学校における学校統合の動きについて

資料により説明、各委員が質問、意見を述べた。

②ワークショップ「いしどりや未来ミーティング」の意見について

資料により説明、各委員が質問、意見を述べた。

【傍 聴】

会議を傍聴した者 0人

1 開 会

(八重樫石鳥谷地域振興課長)

ただいまから、令和6年度花巻市石鳥谷地域協議会(第4回)を開会いたします。

初めに、本日の会議について、委員13名中11名、過半数の出席がありますので、花巻市地域自治区設置条例第9条第2項の規定により、会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。

菅原会長から御挨拶をお願いいたします。

2 挨 拶

(菅原康之会長)

花巻市石鳥谷地域協議会令和6年度第4回の会議を開会させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、石鳥谷地区4小学校における学校統合の動きについて御説明をいただくほか、昨年11月20日に開催し、委員各位にも御出席をいただいたワークショップ「石鳥谷未来ミーティング」の意見について、当局から御報告をいただきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【八重樫石鳥谷地域振興課長が説明者の花巻市教育委員会の職員を紹介】

(八重樫石鳥谷地域振興課長)

花巻市地域自治区設置条例第9条第3項の規定により、会長が議長となります。

3 説 明

(菅原康之会長)

それでは説明に入ります。

本日の案件は、石鳥谷地区4小学校における学校統合の動きについて、並びにワークショップ「石鳥谷未来ミーティング」の意見についての2件でございます。

先に、石鳥谷地区4小学校における学校等の動きについて事務局から説明をお願いいたします。

(八重樫石鳥谷地域振興課長)

本日1件目の案件は、石鳥谷地区4小学校における学校統合の動きについてでございます。この案件は花巻市教育委員会から当協議会の委員に説明したい旨の申出があり、当協議会の委員に説明及び報告を行うものであります。

(菅原康之会長)

ただいま事務局から説明ありましたとおり、本件は当協議会に説明及び報告するものでありますので、よろしくお願いいたします。

それでは石鳥谷地区4小学校における学校統合の動きについて説明者から内容を御

説明いただきます。

【資料に基づき説明 説明者：及川教育部教育企画課長】

(菅原康之会長)

石鳥谷地区4小学校統合後の学校をどのような学校にしていくかは、今後検討されるものであることを御理解の上、ただいまの御説明について御質問御意見がある方は挙手をお願いしたいと思います。

少し私の方から昔の話をさせていただきますが、以前旧石鳥谷町内には小学校が6校ありまして、その内、旧石鳥谷小学校そして大瀬川小学校、八日市小学校の3校が45年前の昭和55年に統合し、旧石鳥谷中学校の跡地に現在の小学校が建設された経緯がございます。

これは対等の統合として、新しい校歌を作り、今の小学校があるわけですが、45年経過していよいよ今度は4校が統合しなければならない状況にあることを皆さん認識したかと思いますが、皆さん方から御意見があればお願いしたいと思います。

大竹委員。

(大竹佐久子委員)

この件に関して、今月13日に八重畑小学校の運営協議会が開催され、その中で小学校のPTA会長から、統合に関する様々な経緯を説明してもらいました。その中で、これからはPTAを中心に地域で啓蒙活動をしなればいけないのではないかということが共通認識になりまして、今後のPTAの進め方を逐一報告してもらった上で、コミュニティとしても協力を惜しまないという結論に至りました。

八重畑の場合は、人数も少なくて非常にまとまりのある学校ですが、やはり教育の今後のことを考えれば、子供がいないから関係ないというのではなくて、できるだけその意向を皆さんに伝えるのがコミュニティの仕事ではないかと思い、運営協議会ではその旨をお話しました。

(及川教育部教育企画課長)

今後小中学校のPTA役員の皆様で様々検討していくわけですが、その検討具合を皆さんに周知したいという考えから、統合だよりのようなものを発行して、検討状況を皆さんにお知らせさせていただきたいと思います。

(菅原康之会長)

他にどなたかございませんか。

高橋委員。

(高橋公男委員)

石鳥谷地域でやはり統合するべきだという声が非常に多いため、やはり統合の方向に進めなければならないのではないかと私自身も思うところです。

この小中一貫校ですが、単純に小学校を統合する場合と、小中一貫校にした場合、どのようなメリットがあるのかをお伺いしたいと思います。それから、矢沢小学校が

令和 10 年の開設のため、その前に着工ということは難しいことだろうと思いますが、花巻市内で矢沢の次に義務教育学校を目指しているところはありますか。

(菅原康之会長)

及川教育企画課長。

(及川教育部教育企画課長)

まず小中一貫教育のメリット・デメリットは、小学校と中学校でかなり違うところがあるということで発生する中 1 ギャップがあります。例えば、小学校では今まで上級生のことをお兄さんお姉さんという考え方があり、1 人の担任の先生がほとんど全ての教科を受け持つのですが、中学校になりますと、上級生は先輩という少し厳しめの考え方になりますし、あと教科担任制のため、専門の先生に教わるということがあります。この小学校と中学校の違いがその段差になり、色々な問題が出てくることになります。これを総称して中 1 ギャップと呼んでおりますが、その中 1 ギャップが要は小学校と中学校が近づく、もしくはひとつになることにより緩和がされると言われております。

小中一貫校の中に義務教育学校というのがありますが、こちらはもう小学校中学校の区別がなくひとつの学校になりますので、1 年生から 9 年生までひとつの学校として進んでいく、小中一貫校でそういうメリットもございます。逆にデメリットというものもございます。代表的なのが、これは統合にも言えることですが、今までは人数のある程度限られた小さい学校の中でお子さんたちが生活してきたため、子供たち一人一人に目が行き届いていたが、当然ながら先生たちは気を付けていますが、大きい学校になるとなかなか上手くいかないところも、もしかしたらあるのかもしれませんが、例えば、運動会で小さい学校だと様々な種目にたくさん出場できていたのが、大きい学校になるとたくさんの種目に出場できず、活躍する場が薄れてしまうというデメリットがあると言われております。あとは、小学校と中学校の逆に段差が少なくなることで、その間にある精神的な区切りがなかなか出てきにくくなり、義務教育学校においては、入学式は小学校 1 年生、卒業式は 9 年生となるため、小学校の卒業と中学校の入学というタイミングがなくなってしまう。気持ち的な切り替えが上手くいくといえますか、ないからこそスムーズに行けるのですが、逆にそういう区切りがほしい場合もございますので、デメリットにもなります。

ただし、これについて既に小中一貫校やっている学校から様々お話をお伺いしますと、例えば立志式とか、2 分の 1 成人式とか、そういうような区分けをあえて逆に作って、子供たちの自覚を促すことを行っているようでございます。

次に、矢沢の次はどこなのか、スケジュールがあるのかというお話ですが、現在は矢沢小学校・中学校で義務教育学校に移行というお話と、石鳥谷地域で 4 つの小学校がひとつに統合するというお話がございしますが、他については具体的な話はございません。

先ほど教育長の方から西南、湯本、湯口地域でもお話をしてきたというのがありましたが、今は皆様に説明をさせていただいている段階で、それではどのようにするかという方向性までは、まだ決まっておられませんので、きちんと小中一貫教育に移行すると決めているのは矢沢だけであり、次がもしかしたら石鳥谷かなと思っており、そ

の他については、まだ話が今のところないと理解しております。

(菅原康之会長)
高橋委員。

(高橋公男委員)

ありがとうございました。もう少しお伺いしたいのですが、そうすると小中一貫校というのは、入学式がまず小学校でやる、そして9年生なわけですから、卒業は9年後の中学校卒業する時の卒業式ということになるわけですか。

(菅原康之会長)
及川教育企画課長。

(及川教育部教育企画課長)

私の説明がちょっと言葉足らずだったのですが、小中一貫校にも色々な種類があり、こちらに書いてある分離型、隣接型、一体型があり、義務教育学校というのがございますが、分離型、隣接型、一体型はあくまでも小中一貫校という話になりますので、小学校と中学校は別であり、それぞれ校長先生もいますし、小学校に入学をして小学校を卒業して、中学校に入学をして、中学校卒業してということが必須でございます。

それらが無いのが義務教育学校になり、義務教育学校は1年生から9年生までのひとつの学校になりますので、校長先生も1人なりますし副校長先生は複数ございますが、小学校の卒業とか中学校の入学等はなくなります。

(菅原康之会長)
高橋委員。

(高橋公男委員)

ありがとうございました。よくわかりました。

そうすると、やり方としては小学校と中学校が同じ近いところにあれば非常に良いということになるわけですか。

(菅原康之会長)
及川教育企画課長。

(及川教育部教育企画課長)

そのとおりでして、実は小中一貫校の分離型、隣接型、一体型が、その位置関係を表しているものでございます。分離型は、ある程度建物の距離が離れている形。隣接型は建物は隣接しているが、小学校と中学校が基本的に別棟。一体型は、ひとつの建物に小学校、中学校がそれぞれあるということになります。

そのため、隣接型や一体型、義務教育学校が良いという話になれば、基本的に今の石鳥谷中学校のあたりが良いと思いますし、分離型という話であれば、市では現在学

校施設は新しく建てるのではなく長寿命化するというような方針でございますから、いずれかの4つの学校を大々的にリフォームをして使用するようになると予想しております。

(菅原康之会長)

他にございますか。

八重樫委員。

(八重樫康治委員)

2ページにこれからの学級数の表がありますが、これだと令和10、11年頃から新堀小学校の複式化が進んでいくというようなことになっています。合併は、児童数が減少していくのでこれはどうしても避けられない状況だと思いますが、私が気になるのは、小中一貫校ということで、だいぶ前から私学では教育効果を高めるため、小中一貫校の議論がずっとなされてきて、実践している学校もだいぶあるわけですが、今日の会議のタイトルを見ても、学校統合の動きについてということで、まるで他人事みたいな形にしか見えません。先ほどの統合の表を見ると、現在令和7年ですので、令和11年まであと4年ぐらいしかありません。そうすると、学校設置には費用もかかりますので、矢沢みたいに先行しているところもあるわけですが、しっかり計画を組んで取り組んでいかないと、小中一貫についての議論も展開していかないと、その合併をどうするべきかについても、なかなか進んでいかないのではないかと思います。やはり統合の動きではなくても、合併の推進計画みたいな形で、議論を深めていかないと、なかなかこういった状況に対応していくというのは難しいのではないかなと私は思います。

先ほど教育企画課長から、統合することで活躍の場が薄まるとかいろんなデメリットもありました。私自身、先ほどの菅原会長の話にあった八日市小学校の最後の年の卒業生ですが、確かに中学校に入ると八日市の田舎から町場の学校に行くと、とんでもない都会に来たような感じがしてショックだったのですが、そのことをデメリットとして捉えるのか、あるいはいろんな新しい出会いの場として、自分の活躍の場が広がっていくと捉えるのかで大きく違うと思います。こういったデメリットは、合併前にそれぞれの小学校で議論を深めて、メリットに変えていくような努力をしながら合併の方向に向けていくという計画性も必要ではないかと思います。

いずれにしろ、1日も早く具体的な統合に向けた目標をきっちりビジョンとして作り上げて、それを早くそれぞれのPTAの方々と議論を深めていっていただきたいなと思います。私はもう孫も成人していて、八日市地区では全く児童もいない地域もたくさんありますので、なかなかそういったものに参加することは難しいわけですが、小中学校の子供を持つ親御さんたちがたくさんいますので、1日も早く議論を深めていけるように、是非リードをお願いします。

(菅原康之会長)

佐藤教育長。

(佐藤教育長)

先ほど及川の方から高橋委員の御質問についての回答がありましたが、いずれ義務

教育学校に限らず、小中一貫校のパターンというのはたくさんありますので、それは丁寧にご説明していただければなかなか理解されないと思います。

ただ、小中一貫教育を導入したところで、いわゆる予想したデメリットが出ている例というのは、実際のところはほとんどないという状況と伺っております。

それから、メリットはもうひとつあり、小中一貫教育をとった場合、義務教育学校もですが、教育課程にある程度特例が認められて、従来の学習指導要領で行われている内容よりも、その子供たちとか地域に合った、あるいは学校で目指したい姿についての特例、例えば義務教育学校の場合、1年生から9年生までの中で、例えば小学校6年生まではこれやらなければいけないよ、中学校からはこれだよといったことの入替えとか、あるいは単位数を若干増やしたり減らしたりすることができるほか、例えば、極端に言えば中学校1年生からの英語を6年生からでもできるとか、それから教科担任制を小学校でも展開ができるということもありますし、まだ他にもあります。

今後石鳥谷中学校の保護者の方にもお伝えしますが、小中一貫教育といってもたくさんパターンがありますので、そこをしっかりと小学校の保護者の方とじっくり勉強していただくこと。それから実際見ていただくことということもやはり必要であり、そこはしっかりと土台をつくってからではないといけないと思っております。

それから市内の様子ですが、実際のところ西南地区の一部の方より小中一貫教育というものを目指したいという声はあります。ただ、笹間第一小学校と笹間第二小学校が昨年度から統合してスタートしましたが、その付帯条件として、いずれ太田小学校も一緒になって欲しいという笹間地区の願いもありました。そういった願いの中には、西南地区でいわゆる小中一貫教育を目指したいという方々の意見もありますので、現在それについては太田の方で様々御検討いただいている最中です。今後の展開では、一貫教育も全く方向性としてないわけではないため、そのことを御示したいと思っております。

それから今八重樫委員さんからお話いただいたことですが、いずれ先ほどお話したとおり、まず保護者の方々の方向性をしっかりと決めた上で、その上でどういった推進組織で、どれだけスケジュール感を持ってやるかについては、まず保護者の方の意見をお聞きし、地域6つのコミュニティでの御判断をいただいた後、すぐにスケジュール化して進めていきたいと思っております。

(菅原康之会長)
八重樫委員。

(八重樫康治委員)

ありがとうございました。小中一貫校のお話ですが、やはり統合が避けられないということですが、現在小中学校の評議員をやらせていただいているのですが、小学校の方は、学級担任制により休業・休職されている先生も多いということで、それに対しての学校の対応が大変困難だというお話も聞きました。

中学校も同じ状況かと思えば、中学校は全然そういうことがないため、教科担任制が、先生の方の負担を少し軽減しているのではないかという考えを持ったわけですが、いずれにしろ小中一貫校になる場合には、対応が多様化してくるということ

もあります。それを父兄、PTAの方々に自然的に任せて判断を仰ぐとかということではなくて、やはり教育委員会の方と一緒に、要はこの地域の学力向上と生徒の質の向上に繋がればそれが一番なので、議論を早く進化して深めていただきたいと願っておりますので、是非御配慮をお願いしたいと思います。

(菅原康之会長)

意見として御聞きすることでよろしいでしょうか。

高橋委員。

(高橋元一委員)

お話を聞いていると待ちの姿勢で、例えば学校を合併していくにあたり地元の意見を聞いていくというのは、格好はいいのですが、なかなか進まないのではないかと思います。小中一貫の関係について、どうなのかという話もありますが、これについても同様に、これからみんなの話を聞いてまとめていくのでは遅く、市としての方針はないのかと思います。例えば、生徒が何人くらいになればこの2つの学校は合併しようという計画はないのかと、それから市として教育に関する今後のビジョンはあると思うのですが、それを地域任せにしてそれぞれがやったら、学校現場が困るのではないかと少し心配もするのですが、そのあたりについてお伺いしたいと思います。

(菅原康之会長)

及川教育企画課長。

(及川教育部教育企画課長)

まず、きちんとした計画が必要ではないかというお話ですが、市の方では適正規模、適正配置に関する基本方針は定めておりますが、お話いたしましたとおり、学校をいつ頃までに統合という計画を持ち合わせてございません。何故かという、やはり学校等も非常に大きな課題になりますので、直接の当事者である保護者の方々はもちろん、やはり地域の方々の御理解がないとなかなか進められませんので計画はないですが、保護者や地域の方々に御説明、協議しながら、進めていきたいと考えています。

(菅原康之会長)

高橋委員。

(高橋元一委員)

重ねての要望ですが、そのような形ではなかなか物事が進んでいかないのではないかと思いますので、もう少しビジョンを持ち、説明しながら誘導していくのもひとつの方法ではないかと思います。おそらく意見を聞くと様々な意見が出てきてまとまらないと思いますし、意見を聞くことは大切だとは思いますが、どちらかという、ある程度専門家が誘導していくことも必要ではないかという気がします。

(菅原康之会長)

他にございませんか。

菅原委員。

(菅原教雄委員)

意見ですが、八重樫委員や高橋委員の意見に賛成なのですが、要するに何かをしよう、何かを建てようと言った場合は、スケジュールがあるはずで、今年はこれ、来年はこれをやると前年に考えるのではなく、例えば小中一貫校の校舎は今の石鳥谷中学校の側に、などのようなスケジュールを持つべきだと思います。何年に何を行い、コミュニティの意見を聞くとかありますが、令和何年には、まず予算をつけて何年後には校舎を建てるとか、何とかそういう一連のスケジュールをはっきりさせる、先ほどもビジョンという話もありましたから、それも踏まえて何かお考えになっているのかもしれませんが、それが無いといつになったら統合になるかというのが見えないと思います。市の考え方はこうだよということを示しながら、PTAの方あるいは地元の方にも説明しながら、進めていった方がいいのかなと思います。

(菅原康之会長)

当局何かございますか。

佐藤教育長。

(佐藤教育長)

まず統合に至るまでということで、先ほどお話しましたように、令和4年から3年かかりました。延べ10回ぐらいの懇談で、まずようやくここまで来たということで、様々な御意見もいただきました。おそらく見通しとすると、これから保護者の方々の勉強会をまず来年度の前半期に集中させたいと思います。その後に地区に入り、例えば来年度内に御判断をいただいたということになれば、次の推進組織を作り、まずラフな形でのスケジュールはお示ししていくと、おそらくこのような形で進んでいくかと思えます。

当然、どういった形態の学校を造るか、例えばどこの校舎を使うか、そういったことはまだ先々の話ですが、まずは統合で御理解をいただいたということで、あくまでスタートに立った段階でございますので、逐次できるだけスピーディーにやるのが基本だと思いますが、まず現在そういう状況だということでご理解いただきたいと思えますし、御意見についてはそのとおりで思えます。

(菅原康之会長)

他にございますか。

板垣委員。

(板垣武美委員)

教育長の方から御説明ありましたが、令和7年度の前半期に勉強会をして、その後にコミュニティに入るというお話でしたが、そういったプロセスを経て、教育委員会

として、石鳥谷地域のその小学校を統合するという統合宣言というかキックオフ宣言のようなものはどの段階で出るのかなということをお聞きします。

そして、統合に向けての様々な話し合いが、様々な場面であると思いますが、どんな学校にするかという議論を踏まえて、建設場所を判断しなければならないと思います。その場合、教育委員会が場所を判断するのか、それとも市長が判断するのか、この部分を確認したいと思います。

そして、3番目になりますが、今現在は矢沢地域で義務教育学校のプロジェクトが進んでいますが、その事業が完遂しないと、石鳥谷小学校の統合のプロジェクトはいわゆるお金の面で着手できないのか、それとも話がある程度まとまれば同時並行な形でも始まるかというところを説明いただければと思います。

(菅原康之会長)

佐藤教育長。

(佐藤教育長)

キックオフ宣言は地域の合意を得た段階と考えています。それから場所、最終的に設置者は教育委員会でございますので、意見を伺ったうえで教育委員会の方で決めます。ただ予算的なものは、最終的には市長部局ということになります。

ただ今矢沢についても、10年スタートということで行っておりますが、かなりタイトな日程になっています。今ようやく場所が矢沢小学校と中学校の敷地の内、矢沢中学校の敷地を利用するというので、今基本設計を進めていますが、面積的に小学校と中学校を共有するとなると狭いので、今必要な用地について買収をしているところです。基本設計、そしてこれから実施設計ということになりますが、実際予算的なこともありますので、なかなかハード面同時にということは相当難しいと思います。まだこれからのことではありますが、いずれできるだけ早い時期につくっていただきたいという多分御要望がたくさんあるとすれば、そういった方向で全力は尽くしていくということになるかと思えます。

すいません、あやふやな答えですが、現段階ではその程度で御理解いただければと思います。

(菅原康之会長)

色々ご意見ありましたけれども、他にございますか。

具体的な決定はこれからのものですので、まず地域に入り意見を集約して方針を決めていくということですが、用地の決定とか建設費の問題も今後出てくるかと思いますが、矢沢の次で、スタートの時点も未定のようなので、これからまた地域で色々御意見をいただいて成案を待ちたいと思います。この辺で打ち切りにしてよろしいでしょうか。

【「異議なし」の声あり】

(菅原康之会長)

それでは石鳥谷地区4小学校における学校統合の動きについてを終了いたします。

【説明者の花巻市教育委員会退席】

(菅原康之会長)

引き続き次の案件に入りたいと思います。

ワークショップ「いしどりや未来ミーティング」の意見について事務局から説明をいただきます。

(八重樫石鳥谷地域振興課長)

本件2件目の案件は、ワークショップ「いしどりや未来ミーティング」の意見についてであります。この案件は、地域住民の意見を反映した地域の振興に資するため、石鳥谷総合支所が主催し実施したワークショップでの石鳥谷地域に関する参加者の意見をまとめたものを当協議会の委員に報告するものです。

(菅原康之会長)

ただいま事務局から説明ありましたとおり、本件は当協議会に報告するものでありますのでよろしく願いいたします。それではワークショップ「いしどりや未来ミーティング」の意見について担当者の方から御説明いただきます。

【資料に沿って説明 説明者：晴山石鳥谷地域振興課地域支援監】

(菅原康之会長)

本件のワークショップ「いしどりや未来ミーティング」は、地域協議会の委員の方も御出席いただいたわけですが、最初にワークショップに出された意見について、参加されなかった委員の皆様方から感想を御聞きしたいと思います。発言があればよろしく願いしたいと思います。

どなたか、参加されなかった委員の方々から何かあればお願いしたいと思います。

高橋委員。

(高橋元一委員)

これはまた2回3回と行っていくのか、それともこれで終わりかということを知りたいと思いますし、様々な意見を出していただくのは非常に貴重だと思いますので、まとめる必要はないと思います。たくさんの方の意見が出てくれば、良い方向に進んでいくのかなという気がしますが、今後また開催予定があるかを確認します。

(菅原康之会長)

佐藤総合支所長。

(佐藤石鳥谷総合支所長)

こちらの「いしどりや未来ミーティング」につきましては、先ほど晴山から御説明いただきましたが、青森大学の佐藤教授から御指導いただきながら開催に至ったものです。

今後の進め方については、改めて佐藤教授の御指導もいただかなければならないですし、例えばメンバーを変えてまた実施することに意味があるのか、更に、花北青雲高校の生徒の皆様にも御参加をいただいたのですが、生徒さんはいつか卒業いたしますので、新たな生徒さんにメンバーを変えてですとか、新たなメンバーでやることもまた意味があるのか、メンバーは同じでまた更にステップアップした問いを投げかけてワークショップをした方がいいかというような、そのもち方の問題もありますので、佐藤教授に御相談しながら、更に皆さんの御意見を伺う場を設定できればと考えております。

(菅原康之会長)

高橋委員よろしいでしょうか。他にございますか。

菅原委員。

(菅原教雄委員)

1年から2年ぐらい前に社会福祉協議会でワークショップをやりまして、それと大体掲載されている内容が似ているのかなと思いつつも、花巻市まちづくり総合計画に基づいて石鳥谷町はどうかということも含めて意見をいただいたと思います。

先ほど佐藤支所長のお話のとおり、今後これをどのように実践していくかという中身が今後の課題だと思います。花巻市まちづくり総合計画の中でアクションプランと今回出された意見との整合性といいますか、それをどう組み合わせていくかというのが課題だと思います。そのため、私はもう1回ワークショップのため集まり、どうするかという話し合いは果たしてどうかと思います。

メンバーを変えるという話でしたが、地域ではコミュニティもありますし、婦人団体、青年団体等の様々な団体がありますから、そのような団体と話をしていくものなのか、あるいは先ほど申し上げたアクションプランの中で、市としてこういうことを行っていきましょうという形で一緒にタイアップして実施していくのか等々がこれからの課題だと思いますので、出された意見はこれ必要な意見でございますから、非常に大事にしてほしいと思います。

(菅原康之会長)

佐藤総合支所長。

(佐藤石鳥谷総合支所長)

このミーティングで出された意見については、既に市としても十分に課題だと認識している内容も多々ありますので、それに関しては、担当課で様々新年度展開していく事業の中で解決に向けて取り組む内容のものもありますし、支所として地域の課題をどう考えるかという部分も宿題をいただいた格好になるのかと思いますので、今後更に意見を聞くことを設けることにはこだわらず、まずは今回のミーティングで出された御意見について、担当課に伝えずとも、既に担当課での方でそれぞれ課題と感じているものをクリアするために、新年度事業に取り組むのが方向性になっているものもあります。

あとは今後の情勢が変わっていくという意味では、小学校が統合することで小学校の

跡地をどうしていくかということも、今後地域として考えていく必要が出てくるのかと思います。その跡地を統合する跡地利用について検討するような場に、今回出された意見も加味して検討するような場面も、今後もしかしたら出てくるのかなと感じているところです。

(菅原康之会長)

課題を特定する、絞った形でまた意見交換をする部分も検討していきたいということのようですが、他にございませんか。

大竹委員。

(大竹佐久子委員)

このワークショップには、私は参加せずコミュニティの事務局が参加しましたので、参加した者の報告を聞いたり、資料を読ましていただいたのですが、掲載されていることが周りでも話しているような事柄がたくさん書いてあります。それでワークショップの報告を聞いたときに、他のところを比較してはいけないとは思いますが、東和町に何故移住者が多いかということについていつも考えてしまいます。様々なところから来て、自由に色々な発想をしているところが石鳥谷には少し足りないのではないのかなと、そういう引き上げる部分がどの程度なのかというのが見えてこないというような気がします。

八重畑振興センターの近くには八重畑小学校があり、子供の送り迎えのお母さん達が寒空の下、かなり長い時間話をしていて、それがすごく楽しそうですが、そういう人たちが話をする場所がなく、軽くコーヒー飲んで心を打ち解け合う場所もないのではないかと思います。せっかくワークショップをしたのだから、何らかの形で行動に移せるようなそういう柔軟なところが見えても良いのではないかと常々思います。私自身も振興センターでお茶飲みをするような場所に提供したいという話をしたら、それは施設管理の面で難しいということ事務局から言われました。

だから、どこからどこまで行っていいのか、もっと自由があってもいいのか、その辺が皆さんにわかるような、そういうせっかくワークショップをして同じような意見が出ているということは、それが物足りないということだと思うので、その辺をもう少し検討していただければと思います。

(菅原康之会長)

佐藤総合支所長。

(佐藤石鳥谷総合支所長)

あくまでも今回未来ミーティングを開催いたしましたのは、地域の皆さんの御意見を伺い、今後の施策、地域振興に生かすという目的で開催したものでございますので、どういった方向性で今後進めていくかというのは今後の検討課題になります。

(菅原康之会長)

那須委員。

(那須千賀委員)

私はこの未来ミーティングに参加したのですが、やはり課題は先ほど大竹委員が話したように集まって話をする場所がないとか、あとは高齢者の足の問題、買い物が不便という問題はいっぱいありました。それは街中の活性化も、そんなに活性化してないというのも石鳥谷単独の話ではなくて、どこもそうなのだなと思い聞きました。

ワークショップに参加して良かったのは、花北青雲高校の高校生参加者に遠野から通っている生徒さんと、金ヶ崎から通っている生徒さんがいて、電車通学は不便ではないか聞いたら、でも青雲高校が楽しいのですと話されて、私達では気づかない良いところが実はあるのだなと思ったので、そういう声を拾うことと、あと何が不便なのかと聞いたら、その電車待ちの時間を潰すというか集まり話をする場所とか、あと遠野から来ている子は乗り換え場所の花巻で何かその休憩する場所がない。駅舎も、もう今はもう寒いしという話をしている、せっかく遠くから通っている子供たちが、もっと通学しやすいような環境ができないのだろうかと思いました。

あとは集まった方の中から、石鳥谷は災害がないという話をしていました。薬師堂川が氾濫しそうだとか、崖崩れの危険のあるところもあるかとは思いますが、県下全般でみると石鳥谷は安全な方のだと。それを売り出しにして、移住者を増やしていったらどうかという話もありましたので、私としては問題点もいっぱいありましたが、前向きになる意見も聞かれて、良いワークショップだったと思います。

(菅原康之会長)

他にどなたかございませんか。
板垣委員。

(板垣武美委員)

御意見をお伺いしております、女性の方々の御発言はやはり柔軟な発想だなと思います感心して聞いておりました。

お茶を飲む場所の事について、ワークショップの中で意見を述べられている方も確かにいましたし、お二人の話の中でもそういうスペースがあればいいなという話がありました。東和町にはけやきラウンジというのがありますが、そういうものがやはり石鳥谷にもほしいと私も強く思います。話は飛躍しますが、酒蔵交流館とか、あるいは農業伝承館とかのあまり利活用されていないような公共施設があるのですから、そういったところをカフェに活用するような検討する価値はあるのではないかと思います。

そしてこの地域協議会というのは、そういうことを色々取り上げて意見交換するための会議なのではないかと思いますので、去年の11月のミーティングの中で出た意見の中から全てを実現しろということは不可能ですが、まず小さいところから着手して、一つ二つぐらいは実現しようという動きに繋げていければ良いと思います。そういう意味で、先日は佐藤先生いらしていただきましたが、「いしどりや未来ミーティング」の第2幕、第3幕があれば良いかと思います。

(菅原康之会長)

御意見ありがとうございました。当局の御検討をよろしく願いいたします。

他にございませんか。なければ今日はこのあたりで終了したいと思います、よろしいでしょうか。

【「異議なし」の声あり】

(菅原康之会長)

ありがとうございます。それではワークショップ「いしどりや未来ミーティング」の意見については終了させていただきます。

4 閉 会

(八重樫石鳥谷地域振興課長)

以上で令和6年度花巻市石鳥谷地域協議会（第4回）を閉会いたします。